

このドライバー設定ガイドは、“M-DC01MBBK” に付属のドライバーを使った、各ボタンの機能変更、マクロの割り当て、DPI の設定などの操作について説明しています。

※ドライバーのインストール方法については、“M-DC01MBBK” に付属のユーザーズマニュアルをご覧ください。

※このドライバー設定ガイドは、Windows® 10 の画面で説明しています。

画面は OS によって異なりますが、操作は同じです。

ドライバーを起動する



CLICK

2

ページ

ドライバーの画面について



CLICK

3

ページ

ボタンの機能を設定する



CLICK

5

ページ

DPI 値を設定する



CLICK

15

ページ

各種機能設定画面を起動する



CLICK

16

ページ

マクロを設定する



CLICK

21

ページ

ドライバーを起動する

- 1** 通知領域の  アイコンをクリックして「設定画面を開く」をクリックします。



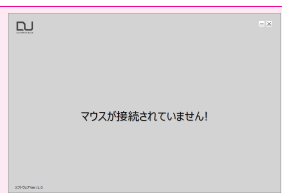
-  • 通知領域に  が表示されている場合は、 をクリックして  アイコンを右クリックし、「設定画面を開く」をクリックします。

- 2** ドライバーの設定画面が表示されます。

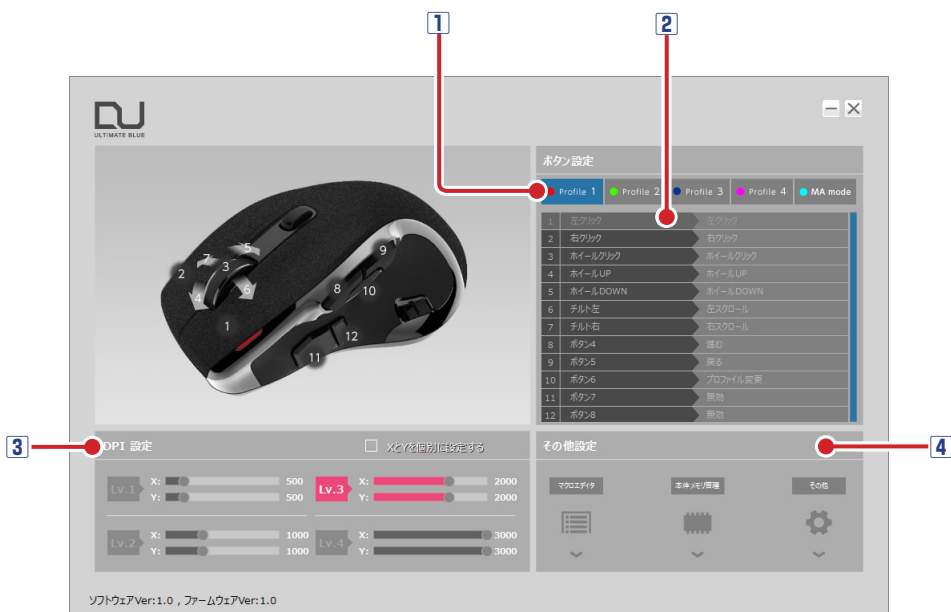
マウスを接続後、ドライバーの初回起動時は、マウスの本体メモリに保存されている設定が読み込まれます。



-  マウスを接続せずにドライバーを起動すると、「マウスが接続されていません!」と表示されます。必ずマウスを接続して操作してください。



ドライバーの画面について



1 プロファイル選択部

5つのプロファイルが設定できます。4つのプロファイル（プロファイル1～4）にそれぞれ異なるボタン設定を登録でき、プロファイルを切り替えることで設定をまとめて切り替えることができます。「MA mode」は「エレコム マウスアシスタント」の設定を使用するモードです。Windows® の Bluetooth® 接続時および Macintosh で使用するとき、選択します。

詳細は、➡「[ボタンの機能を設定する](#)」を参照してください。

2 ボタンリスト

各ボタンおよびチルトホイールの名前と現在各ボタンに割り当てられている機能が表示されます。ボタンの機能を変更するには、変更するボタンの番号、ボタン名、または機能名をクリックし、表示されたボタン設定画面で機能を選択します。

詳細は、➡「[ボタンの機能を設定する](#)」を参照してください。

③ DPI 設定部

DPI (Dot Per Inch) とは、マウスを 1 インチ動かしたときのカーソルの動きをドット数で示したものです。DPI の数値が高いほど、マウスの動きに対するポインタの移動範囲や速度が大きくなります。DPI の設定は 4 段階保存できます。設定した内容は自動的にマウスの本体メモリに保存され、すぐに反映されます。

詳細は、👉 [「DPI 値を設定する」](#) を参照してください。

④ 各種機能設定画面起動ボタン

レポートレート、マクロ設定画面、本体メモリ管理、その他各種設定をする画面を起動します。

詳細は、👉 [「各種機能設定画面を起動する」](#) を参照してください。

ボタンの機能を設定する

プロファイルを選択する

最初にプロファイルを選択します。ボタン設定の内容が、選択したプロファイルに登録されます。



- 「MA mode」はエレコム マウスアシスタントのボタン設定を使用するときに使います。
- 本ドライバーは、Windows® で 2.4GHz 無線接続時のみ使用できます。Windows® の Bluetooth® 接続時および Macintosh で本製品を使用するときは、エレコム マウスアシスタントをインストールする必要があります。
- Windows® の 2.4GHz 無線接続では「エレコム マウスアシスタント」を使用して本製品の設定を変更することはできません。
- エレコム マウスアシスタントのインストールについては、ユーザーズマニュアルの「エレコム マウスアシスタントをインストールする」をご覧ください。



ボタンの機能を設定する

ボタンリストには、ボタン番号、ボタン名およびチルトホイールの名前と現在各ボタンに割り当てられている機能が表示されています。



ボタンの機能を変更するには、変更するボタンの番号、ボタン名、または機能名をクリックし、表示されたボタン設定画面で機能を選択します。

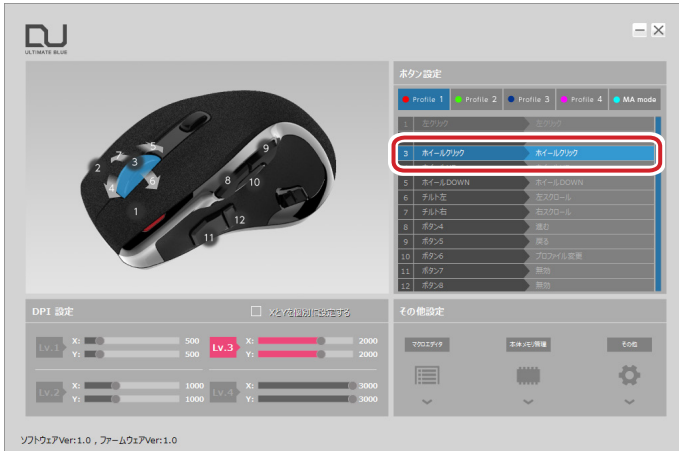


リストに表示しきれなかったボタンはホイールを回し、スクロールさせるかスライダーをドラッグして表示させてください。

ボタンの機能を設定するには

次の手順は、「3 ホイールクリック」に「音量ミュート」を割り当てる場合を例として説明します。

- 1 変更するボタンの番号、ボタン名、または機能名をクリックします。**
ボタン設定画面が起動します。



- 2 ボタン設定画面の「音量」の「音量ミュート」をクリックします。**
選択した機能が赤く表示されます。
設定できる機能の詳細は、➡「[ボタン設定画面](#)」を参照してください。



3 登録する をクリックします。



4 これで、ボタンの機能が変更されました。



ホイールをクリックすると、「音量ミュート」が実行されます。

ボタン設定画面



ボタンによってはすべての機能が割り当てられないものがあります。
割り当てられない機能は暗く表示され選択できません。

マウス

右クリック	右クリックします。
左クリック	左クリックします。
進む	Web ブラウザの「進む」操作になります。
戻る	Web ブラウザの「戻る」操作になります。
ホイールクリック	チルトホイールをクリックします。

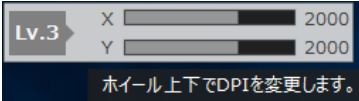
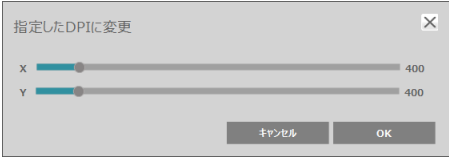


左クリックが割り当てられているボタンは、他のボタンに左クリックが割り当てられていないと変更できません。

ホイール

ホイール UP	ホイール UP の機能を割り当てます。
ホイール DOWN	ホイール DOWN の機能を割り当てます。
左スクロール	excel 等で左にスクロールします。
右スクロール	excel 等で右にスクロールします。

DPI 設定

DPI 設定モードを起動	ミニウィンドウで DPI が微調整できるようになります。 《設定方法》 ① 設定したボタンを押して DPI 設定モードを起動します。 ② チルトホイール上下で DPI を調整します。  ③ もう一度設定したボタンを押すと DPI が確定します。
指定した DPI に変更	ボタンを押している間だけ、あらかじめ指定しておいた DPI に変更します。 《設定方法》 ① 「指定した DPI に変更」をクリックします。 DPI 指定画面が表示されます。 ② X と Y をそれぞれの値をドラッグして変更します。  ③ OK をクリックし、DPI 指定画面を閉じます。
Y 方向をロックする	ポインタの Y 軸方向（上下）の動きを禁止し、左右のみの動きに設定します。
X 方向をロックする	ポインタの X 軸方向（左右）の動きを禁止し、上下のみの動きに設定します。
DPI Lv を上げる	Lv1 → Lv2 → Lv3 → Lv4 の順に DPI のレベルを 4 段階で上げます。
DPI Lv を下げる	Lv4 → Lv3 → Lv2 → Lv1 の順に DPI のレベルを 4 段階で下げます。
次の DPI Lv	Lv1 → Lv2 → Lv3 → Lv4 → Lv1 . . . の順に DPI のレベルを切り替えます。

キーボード

表示されたキーボード上で選択した任意のキーをマウスボタンに割り当てます。



《設定方法》

- ① **登録するキー選択** をクリックします。

キーボード設定画面が表示されます。

- ② 設定したいキーをクリックします。



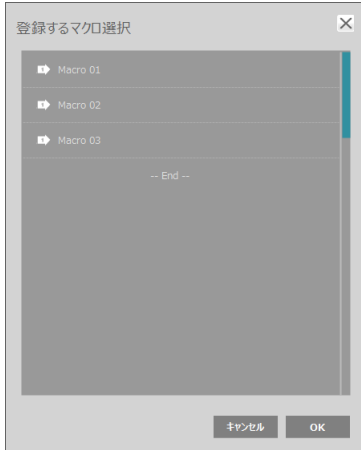
- 「Ctrl」、 「Shift」、 「Alt」 など、同時押しが可能なキーは黄色で表示されます。同時押しできないキーは青色で表示されます。
- この画面で同時押しが設定できないキーは、マクロを使用して同時押しが設定できます。➡ [「マクロを設定する」](#)

- ③ **OK** をクリックし、キーボード設定画面を閉じます。

マクロ

選択したマクロをマウスボタンに割り当てます。

マクロ設定画面の詳細やマクロの作成方法については、👉「マクロを設定する」を参照してください。



《設定方法》

- ① **登録するマクロ選択** をクリックします。
マクロ選択画面が表示されます。
- ② 設定したいマクロをクリックします。
- ③ **OK** をクリックし、マクロ選択画面を閉じます。

❗ マクロを設定したボタンのマクロを削除すると、ボタン設定は初期設定に戻ります。

音量

音量 上げる	Windows® の音量設定を上げます。
音量 下げる	Windows® の音量設定を下げます。
音量 ミュート	Windows® の音量設定を消音にします。

音楽

再生	メディアプレーヤーを再生します。*
一時停止	メディアプレーヤーの再生を一時停止 / 再開します。*
早送り	メディアプレーヤーの再生中に押すと、早送り再生をします。*
次のトラック	メディアプレーヤーの次のトラック / チャプター / ファイルの先頭に進みます。*
前のトラック	メディアプレーヤーの1つ前のトラック / チャプター / ファイルの先頭に戻ります。*

*使用するプレイヤーソフトによっては動作しないことがあります。

その他機能

設定画面を開く	ドライバーの設定画面を開きます。
Web ブラウザを開く	標準の Web ブラウザを起動します。
マイコンピュータを開く	Windows® のエクスプローラーから「PC」画面を開きます。
電卓を開く	電卓を起動します。
メディアプレーヤーを開く	既定のプログラムに設定されているメディアプレーヤーを起動します。

プロファイル

プロファイル変更	プロファイルを順に切り替えます。
プロファイル 1	プロファイル 1 に切り替えます。
プロファイル 2	プロファイル 2 に切り替えます。
プロファイル 3	プロファイル 3 に切り替えます。
プロファイル 4	プロファイル 4 に切り替えます。
MA mode	MA mode に切り替えます。



- 「プロファイル変更」を割り当てる場合、すべてのプロファイルで同じボタンに割り当てることを推奨します。

すべてのプロファイルに割り当てない場合、連続して押しても切り換えがループしなくなります。

また、「MA mode」を使用する場合は、「MA mode」のプロファイルでは本ドライバーでボタンの設定を変更することはできません。「MA mode」を含んだ切り替え運用をする場合は、「プロファイル変更」を割り当てる場合は、デフォルトの「12 ボタン 6」のまま使用してください。

- 「MA mode」で使用するときは、「エレコム マウスアシスタント」でボタン 6 に機能を割り当てないでください。「プロファイル変更」が効かなくなります。

無効

ボタン

クリックするとボタンの機能を無効に設定します。

初期設定に戻す

ボタン

クリックすると現在ボタンに設定されている機能を初期設定に戻します。

キャンセル

ボタン

クリックすると選択した機能を設定せずにメイン画面に戻ります。

登録する

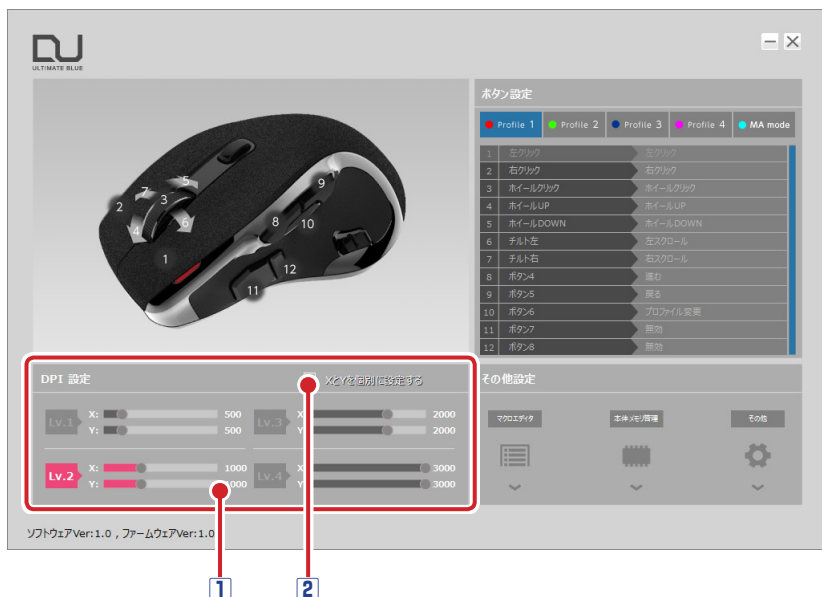
ボタン

ボタン設定画面で選択した機能をボタンに登録します。

DPI 値を設定する

マウスの DPI を設定します。

DPI の設定は 4 段階保存でき、「DPI Lv を上げる」「DPI Lv を下げる」「次の DPI Lv」で切り替えできます。設定した内容は自動的にマウスの本体メモリに保存され、すぐに反映されます。



① DPI 値設定バー

設定バーをドラッグして、DPI を 50 ～ 3000 dpi の間で 50 dpi 単位で設定します。

❗ 設定できる最小値は 50dpi ですが、マウスカーソルがほとんど動かなくなります。小さな値で確定してしまった場合は、他のマウスパッドなど動作可能な操作面を探るか、他のポインティングデバイスを使用して数値を再設定してください。

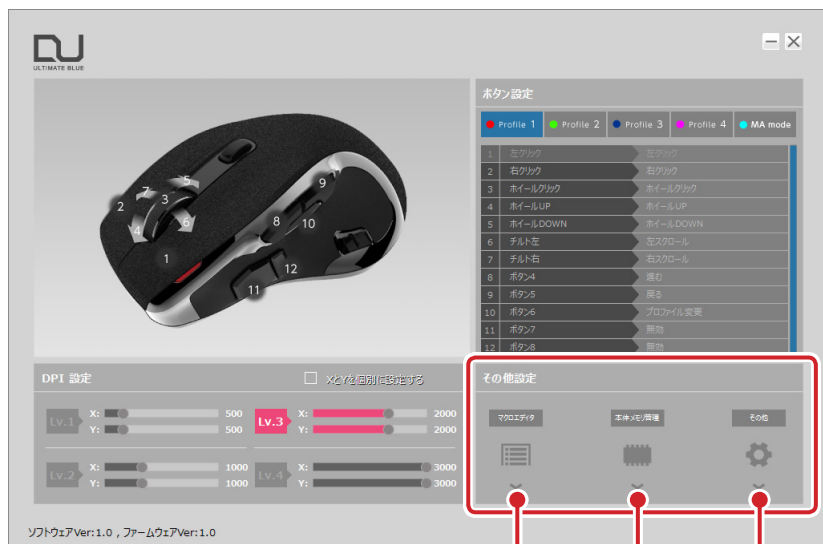
② X と Y を個別に設定する

チェックマークを付けると、X 軸と Y 軸を個別に設定できます。

ポインタの動きを上下方向または左右方向に大きくするときを使用します。

各種機能設定画面を起動する

マクロエディタ、本体メモリ管理、その他各種設定をする画面を起動します。



「マクロエディタ」起動

「本体メモリ管理」設定画面起動

「その他」設定画面起動

「マクロエディタ」起動ボタン

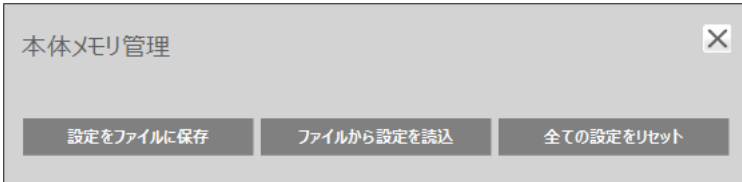
クリックすると「マクロ設定画面」が起動します。



一連の操作をマクロとして作成します。作成したマクロは、マウスの本体メモリに保存したあと、ボタン設定画面でボタンに割り当てることで使用できるようになります。詳細は、➡「マクロを設定する」を参照してください。

「本体メモリ管理」設定画面起動ボタン

クリックすると「本体メモリ管理」設定画面が起動します。

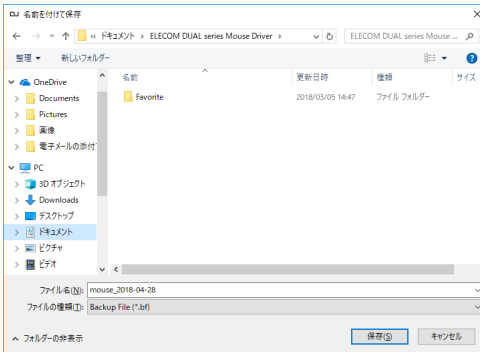


設定をファイルに保存 ボタン

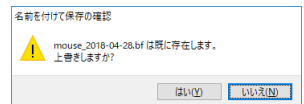
設定したマウスの本体メモリをパソコンのファイルとして保存します。

ボタンをクリックすると、名前を付けて保存ダイアログボックスが表示されます。

初期設定のファイル名は、「mouse_年月日」になります。必要場合は名前を変更してください。

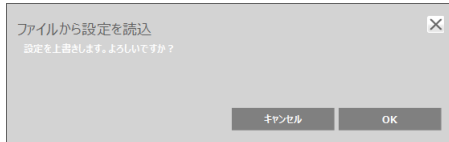


同じ名前のファイルがある場合、上書きしてもよいか確認のメッセージが表示されます。

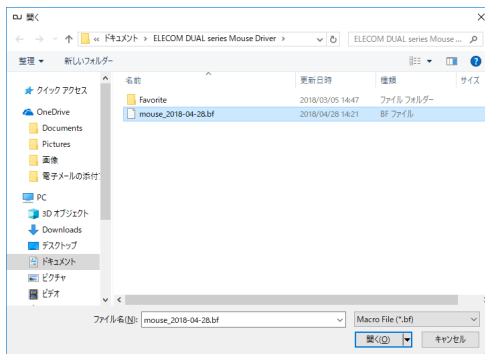


ファイルから設定を読み ボタン

パソコンに保存されているファイルをマウスの本体メモリに読み込みます。
ボタンをクリックすると、確認のメッセージが表示されます。



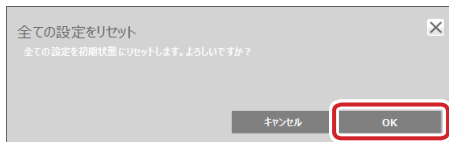
OK をクリックすると「開く」ダイアログボックスが表示されます。



保存したファイルを選択し、**開く(O)** をクリックします。
マウスの本体メモリにファイルの内容が読み込まれます。

全ての設定をリセット ボタン

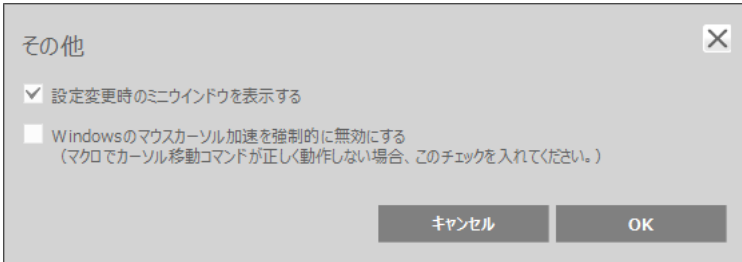
マウスの本体メモリに保存したすべての設定（ボタンの機能割り当て、DPI の設定、マウスに保存されているマクロなど）をリセットし、初期設定に戻します。
ボタンをクリックすると確認のメッセージが表示されます。



OK をクリックするとすべての設定がリセットされ、初期設定に戻ります。

「その他」設定画面起動ボタン

クリックすると「その他」設定画面が起動します。

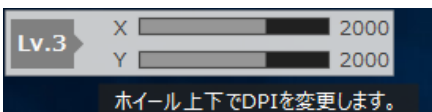


☐ 設定変更時のミニウインドウを表示する

チェックボックスをオンにすると、プロファイルや DPI 設定の起動時に設定内容をミニウインドウでデスクトップの左上に表示するようになります。



プロファイル切替時



DPI 設定起動時



本製品は設定をマウス本体に保存するので、ドライバーがインストールされていないパソコンでも設定は有効ですが、ミニウインドウはドライバーがインストールされていないパソコンでは表示されません。

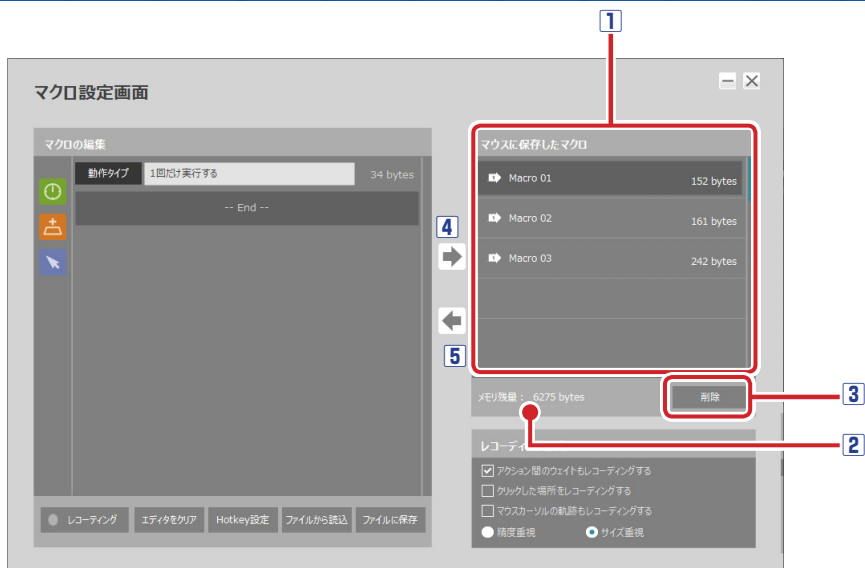
☐ Windows のマウスカーソル加速を強制的に無効にする

チェックボックスをオンにすると、Windows® のマウスカーソル加速を無効にします。Windows® のマウスカーソル加速が有効になっている場合、マクロで「マウスカーソル移動」のアクションが正しく動作しません。

マクロを設定する

一連の操作をマクロとして作成します。作成したマクロは、保存（マウスの本体メモリに自動的に保存されます）した後、ボタン設定画面でボタンに割り当てることで使用できるようになります。

マクロ設定画面



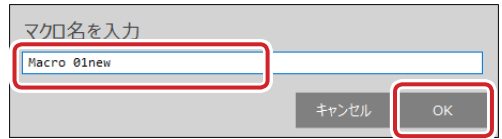
1 マウスに保存したマクロ

マウスの本体メモリに保存されているマクロの名前と容量が表示されます。



マクロ名を変更するとき

- ① マクロ名をダブルクリックします。
マクロ名を入力するダイアログボックスが表示されます。
- ② キーボードでマクロの名前を入力します。
- ③ **OK** をクリックします。
マクロ名を入力ダイアログボックスが終了し、名前がマクロ名に反映されます。



2 メモリ残量

マウスのメモリの残量が表示されます。マクロは 8Kbyte まで作成できます。
本体メモリの残量が足りない場合は、エディタの内容をファイルとしてパソコンに保存する機能を利用してバックアップしたあと、本体メモリに保存されているマクロを削除し、空き容量を確保してください。

3 削除ボタン

マウスの本体メモリに保存されているマクロを削除します。

- ① 削除するマクロ名を選択し、**削除** をクリックします。
削除確認のメッセージが表示されます。



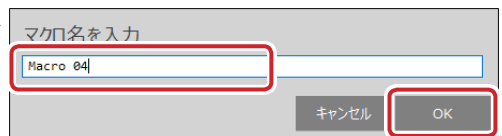
- ② **OK** をクリックします。
マウスの本体メモリからマクロが削除されます。

4 マウスにマクロを保存

エディタの内容をマウスの本体メモリにマクロとして保存します。保存したマクロは「マウスに保存したマクロリスト」に表示されます。

エディタの内容を新しいマクロとして保存するとき

- ① 「マウスに保存したマクロ」の **+** をクリックします。
- ② **➡** をクリックします。
マクロ名を入力ダイアログボックスが表示されます。
- ③ キーボードでマクロの名前を入力します。
- ④ **OK** をクリックします。
新しいマクロが本体メモリに保存されます。



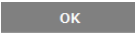
エディタの内容を作成済みのマクロに上書きするとき

①「マウスに保存したマクロ」で上書きするマクロ名をクリックします。

②  をクリックします。

上書き確認のメッセージが表示されます。



③  をクリックします。

マクロが本体メモリに上書き保存されます。

5 エディタに読み込み

「マウスに保存したマクロ」のマクロをエディタに読み込みます。

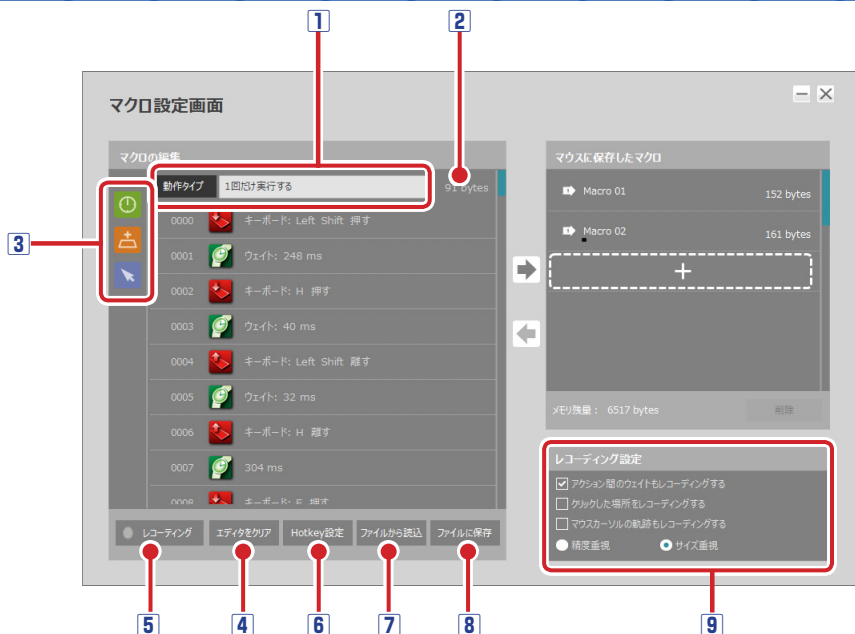
作成済みのマクロをエディタに読み込むとき

①「マウスに保存したマクロ」でマクロ名をクリックします。

②  をクリックします。

エディタにマクロの内容が表示されます。

マクロを編集する



① 動作タイプ

マクロの動作タイプを設定します。

動作タイプ をクリックするたびに、次の3タイプが切り替わります。

「1回だけ実行する」

「もう一度キーを押すまで実行し続ける」

「キーを押している間実行し続ける」

② 編集中のマクロの容量

エディタで作成または編集中のマクロの容量を表示します。

3 エディタ

マクロを作成または編集します。マクロのコマンドおよびアクションは、エディタの上から順番に動作されます。

コマンドまたはアクションを追加するとき

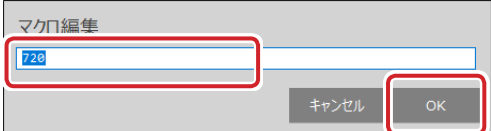
アイコンをエディタ上の追加したい位置にドラッグ&ドロップします。

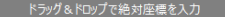




「ウェイト（待機時間）」コマンドを追加する場合は、ドラッグ&ドロップしてから、次の方法でウェイト（待機時間）を設定します。

-  /  をクリックして待機時間(単位: ms)を変更します。
- コマンドをダブルクリックして表示されるマクロ編集ダイアログボックスで待機時間(単位: ms)を入力し、 をクリックします。



	「キーを押す」アクションを追加する場合は、ドラッグ&ドロップしてから、キーボードで設定するキーを押します。 「マウスボタンを押す」アクションを追加する場合は、ドラッグ&ドロップしてから、設定するマウスボタンを押します。 「スクロールホイール上下」アクションを追加する場合は、ドラッグ&ドロップしてから、スクロールホイールを設定する方向に回します。 ❗ - 本製品のボタン 6 ～ ボタン 8 はマクロに登録できません。 - チルト (左右のスクロール) はマクロに登録できません。
	「マウスカーソル移動」アクションを追加する場合は、ドラッグ&ドロップしてから、次の方法で移動座標を設定します。 ① 移動座標の種類を「相対座標」または「絶対座標」から選択し、X/Y それぞれに座標を入力します。 絶対座標の場合は、 をクリックし、そのままドラッグすることで、絶対座標を入力できます。  絶対座標：現在のマウスカーソルの位置を問わず、指定した座標にカーソルを移動します。 相対座標：現在のマウスカーソルに位置から指定した座標分だけカーソルを移動します。 ②  をクリックします。 座標が反映されます。  ❗ 「マウスカーソル移動」アクションが正しく動作しない場合は、「その他」設定画面の「Windows のマウスカーソル加速を強制的に無効にする」でチェックマークを付けてください。

エディタの操作

- アイコンをクリックすると、選択中のコマンドまたはアクションの上の行に追加されます。
- コマンドおよびアクションの順番はドラッグ & ドロップで入れ替えられます。
- 連続した複数のコマンドおよびアクションを選択するには、[Shift] キーを押しながらクリックします。
- すべてのコマンドおよびアクションを選択するには、[Ctrl] キー + [A] キーを押します。
- コマンドおよびアクションをコピーするには、[Ctrl] キー + [C] キーを押します。
- コマンドおよびアクションを貼り付けるには、挿入したい位置の下のコマンドまたはアクションを選択し、[Ctrl] キー + [V] キーを押します。選択中のコマンドまたはアクションの上の行に追加されます。
- コマンドおよびアクションを削除するには、[Delete] キーを押します。

エディタ上に表示されるアイコン

	「ウェイト（待機時間）」コマンドを示します。ダブルクリックで表示されるダイアログボックスで設定を変更できます。
	「キーを押す」アクションを示します。
	「キーを離す」アクションを示します。
	「マウスボタンを押す」アクションを示します。
	「マウスボタンを離す」アクションを示します。
	「スクロールホイール上」アクションを示します。
	「スクロールホイール下」アクションを示します。
	「カーソル絶対座標移動」アクションを示します。ダブルクリックで表示されるダイアログボックスで設定を変更できます。
	「カーソル相対座標移動」アクションを示します。ダブルクリックで表示されるダイアログボックスで設定を変更できます。
	コマンドをマクロから追加したときに表示されます。レコーディングしたアクションには表示されません。

④ エディタをクリア

エディタの内容をすべて削除します。



マクロの新規作成時、前の編集内容が表示されているときは **エディタをクリア** をクリックしてください。前の設定をリセットせず、マクロ編集のベースとして利用することもできます。

⑤ レコーディング

実際にキーボードやマウスボタンで操作した内容を記録し、マクロとして使用することができます。 **レコーディング** をクリックすると、レコーディングの準備状態に入り、[F10] キー（初期設定）でレコーディングをスタート / ストップします。

⑥ Hotkey 設定

レコーディングをスタート / ストップするキーを設定します。

初期設定は [F10] キーに割り当てられています。

[F10] キーが他のアプリケーションソフトに割り当てられている場合は、[F10] キー以外に変更できます。

Hotkey 設定 をクリックし、設定するキーボードのキーを押します。

⑦ ファイルから読み込み

ファイルとしてパソコンに保存したエディタの内容をエディタに読み込みます。

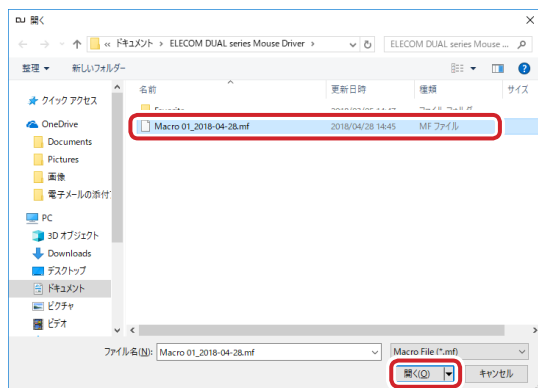
エディタの内容をパソコンに読み込むとき

① **ファイルから読み込み** をクリックします。

[開く] ダイアログボックスが表示されます。

② 保存したファイルを選択し、**開く(O)** をクリックします。

エディタにファイルの内容が読み込まれます。



⑧ ファイルに保存

エディタの内容をファイルとしてパソコンに保存します。

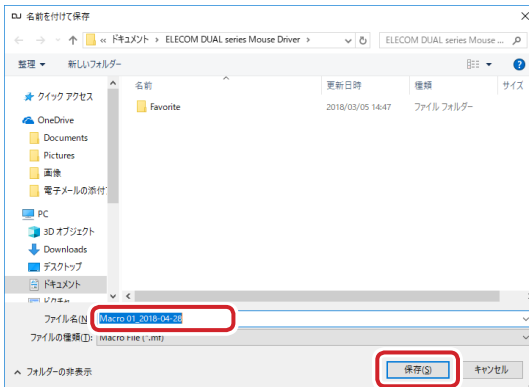
エディタの内容をパソコンに保存するとき

- ① **ファイルに保存** をクリックします。

[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。

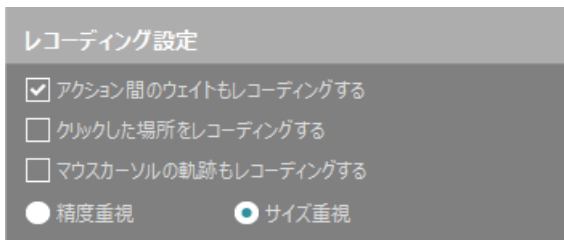
- ② ファイル名を入力し、**保存(S)** をクリックします。

初期設定のファイル名は、「マクロ名_年月日」になります。必要な場合は名前を変更してください。



⑨ レコーディング時の設定

レコーディング機能を使ってマクロを定義する際の設定をします。



アクション間のウェイトもレコーディングする

チェックマークを付けると、レコーディング操作中のウェイト（待機時間）も記録されます。

クリックした場所をレコーディングする

チェックマークを付けると、レコーディング操作中のマウスカーソルをクリックした座標も記録されます。

マウスカーソルの軌跡もレコーディングする

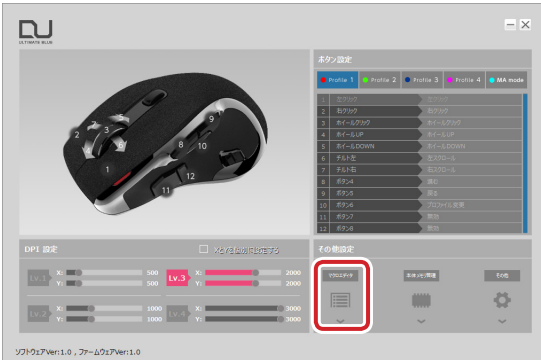
チェックマークを付けると、レコーディング操作中のマウスカーソルの軌跡も記録されます。

レコーディングの精度を「精度重視」または「サイズ重視」から選択します。「精度重視」は「サイズ重視」よりカーソルの記録間隔が細くなり、なめらかなカーソル移動が再現できますが、消費メモリサイズが大きくなります。

マクロを作成する例

次の手順は、キーボードの [H] キー、[e] キー、[l] キー、[l] キー、[o] キー、[Enter] キーを順番に押すマクロを作成する場合を例として説明します。

1 ボタン設定画面で[マクロ設定画面]をクリックします。



マクロ設定画面が起動します。

2 動作タイプ をクリックし、マクロの動作タイプを設定します。



3 必要に応じて、レコーディング設定を設定します。

4 エディタでマクロのコマンドまたはアクションを追加します。

アイコンから追加する場合

- ①  をクリックし、キーボードの [H] キーを押します。
- ②  をクリックし、キーボードの [e] キーを押します。
- ③  をクリックし、キーボードの [l] キーを押します。
- ④  をクリックし、キーボードの [l] キーを押します。
- ⑤  をクリックし、キーボードの [o] キーを押します。
- ⑥  をクリックし、キーボードの [Enter] キーを押します。

レコーディングで追加する場合

- ①  レコーディング をクリックします。
- ② キーボードの [F10] キー（初期設定）を押し、レコーディングをスタートします。
- ③ キーボードの [H]、[e]、[I]、[O]、[Enter] の順にキーを押します。
- ④ キーボードの [F10] キー（初期設定）を押し、レコーディングをストップします。

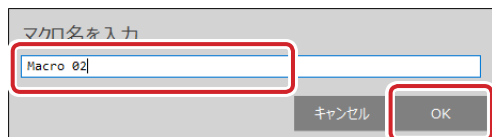
 ウェイト（待機時間）を記録しない場合は、「アクション間のウェイトもレコーディングする」のチェックマークをはずしてください。

- 5 「マウスに保存したマクロリスト」の  をクリックし、 をクリックします。

マクロ名を入力ダイアログボックスが表示されます。

- 6 マクロの名前を入力し、 をクリックします。

新しいマクロが本体メモリに保存されます。



「マウスに保存したマクロ」には作成したマクロが表示されます。



- 7  をクリックし、マクロ設定画面を終了します。

これで、マクロが作成されました。

作成したマクロは、ボタン設定画面でボタンに割り当てることができます。

サイドホイール搭載ワイヤレス
ULTIMATE Blue マウス

M-DWS01DBBK/M-DWM01DBBK/M-DWL01DBBK

ドライバー設定ガイド

2018 年 6 月 1 日 第 1 版

- 本マニュアルの著作権は、エレコム株式会社が保有しています。
- 本マニュアルの内容の一部または全部を無断で複製 / 転載することを禁止させていただきます。
- 本マニュアルの内容に関するご意見、ご質問がございましたら、エレコム総合インフォメーションセンターまでご連絡ください。
- 本製品の仕様および外観は、製品の改良のため予告なしに変更する場合があります。
- 本製品を使用したことによる他の機器の故障や不具合等につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。
- その他記載されている会社名・製品名等は、一般に各社の商標または登録商標です。